

先人の文化をたずねる

首里城から北側の丘陵地は「北方(にしかた)」と呼ばれる御殿殿内が建ち並んだ地域。そこは琉球王国時代の政治・経済・文化の中核を担った人々の生活の場でした。

首里城から地方へ延びる宿道は、この「北方」にはふたつあり、人々の往来や首里文化の伝達に重要な役割を果たしていました。そして現在、儀保駅周辺は、モノレール駅を中心に新しい地域交流の拠点となっています。

① 宿道

宿道とは首里城を起点に地方へ延びる琉球王国時代の公道。各地に番所(ばんじよ)と呼ばれる役所が設置され、人や物の交流が宿道をつうじて行われていました。

首里城を起点に二手に分かれた宿道は、太平橋で合流して浦添方面へ延びています。

② 太平橋

創建当初は木橋でしたが、一五九七年にアーチ型石橋に改修されました。沖繩戦で破壊され、コンクリート造りとなっていますが、現在でも首里から浦添に抜ける交通の要所の一部となっています。



太平橋

③ 安谷川御嶽

安谷川御嶽は当蔵町の御嶽。宝珠をのせた石造りのアーチ門と二八二四年の大修理について記した石碑が残っています。

安谷川は、地域の人々が利用した共同井戸。井戸背後はいかた積みみの石垣で囲ってあり見事です。安谷川近くの坂はこの井戸から「安谷川坂(アダニガヒラ)」と呼ばれました。



安谷川御嶽

④ 安谷川

安谷川御嶽は当蔵町の御嶽。宝珠をのせた石造りのアーチ門と二八二四年の大修理について記した石碑が残っています。

安谷川は、地域の人々が利用した共同井戸。井戸背後はいかた積みみの石垣で囲ってあり見事です。安谷川近くの坂はこの井戸から「安谷川坂(アダニガヒラ)」と呼ばれました。

■ 組踊ゆかりの地

「組踊」とは、琉球で成立した舞踊・音楽・台詞の三要素からなる独特の戯曲で、国の重要無形文化財にも指定されています。末吉公園内には、組踊の創始者にちなんで「玉城朝薫生誕三百年記念碑」が建てられています。

⑤ 玉城朝薫生家跡・加良川

玉城朝薫(一六八九〜一七三四年)は、組踊の創始者で、首里儀保町で生まれました。儀保町には朝薫が産湯をつかったといわれる加良川が残っています。

朝薫は薩摩や江戸で学んだ大和芸能を元に、一七一九年、中国からの使者・冊封使(さつぽうし)のために、首里城ではじめて組踊を発表しました。朝薫の作品は「執心鐘入」「銘苅子」「二童敵討」「孝行之巻」「女物狂」など、現在でも代表的な演目として親しまれています。



加良川

■ 琉球の三大政治家

王都首里は政治・行政の中心地であり、首里城周辺には、たくさんの方士の屋敷が点在していました。羽地朝秀、蔡温、宜湾朝保は、時代は異なりますが琉球を代表する偉大な政治家です。彼らの屋敷跡や墓が残っており、屋敷跡には彼らの足跡がわかるように解説板が設置されています(羽地蔡温は二〇〇七年三月設置予定)。

羽地朝秀はねじりようしゅう(一六一七〜一六七五年)：大中村生まれ。首里王府の最高役職である撰官(せつせい)を務め、『中山世鑑』や『羽地仕置』を編纂した。

蔡温(さいおん)一六八二〜一七六一年：久米村生まれ。首里王府の大臣にあたる三司官(さんしかん)となり、首里に家屋敷を賜った。二十五年間にわたって国政に携わり、農林土木事業を実施する一方、風水師としての一面を持つ。

宜湾朝保(ぎわんちやうほ)一八二二〜一八七六年：赤平村生まれ。王国末期に「三司官」となり、一八七一年の維新慶賀使に参加し、明治政府から琉球藩設置を言い渡される。王国時代を代表する歌人。



歴史マップで地域再発見！ 大名地区

大名地区は、大名小学校を中心にスポーツが盛んな地域。スポーツだけではなく、歴史や文化にも目を向けよう。生涯学習館で、二年の歳月をかけて製作されたのが「大名界隈歴史マップ」(大名界隈歴史散策(ガイドブック))です。製作にあたってはマップ作成委員会が設置され、何度も現地調査や会議が行われました。今年、マップを活用した学習機会をつくるため、八月、十月に生涯学習館にて案内ガイド養成講座を開講し、十六名のボランティアガイドが誕生しています。普段何気なく通っている場所が新たな発見も多数あったそうです。マップには界隈の史跡や旧跡が親しみやすく描かれています。今後は、地域を牽引する後輩を育てるための人材育成が課題です。生涯学習館館長の西浜完治さんによると、次回のガイド養成講座は、小学生の父母の皆さんを対象に企画したいとのこと。「親が参加することで子供達とのコミュニケーションのきっかけとなつて欲しい」と、西浜さんは今後の抱負を語ります。



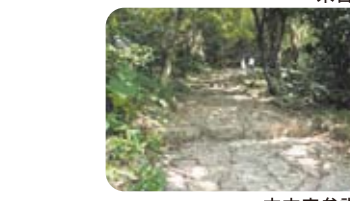
西浜完治さん

⑥ 末吉宮・参詣道

琉球八社のひとつで俗に「社壇」と称されました。一四五六年度の創建といわれ、琉球国王も参詣に訪れたところです。拝殿は明治末期に倒壊し、本殿も戦災を受けましたが、参詣道から本殿間の礎石(とうどう)と社壇が復元されました。末吉宮へいたる参詣道は、石畳道が残っており、木々に囲まれた閑静な雰囲気でお楽しみいただけます。



末吉宮



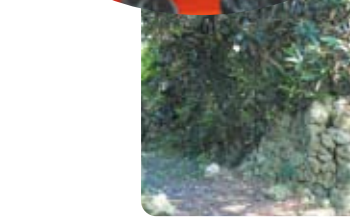
末吉宮参詣道

⑦ 遍照寺跡

遍照寺は末吉宮の下にあった寺で、もとは万寿寺といいました。沖繩戦で破壊され、現在は礎石と門前の石垣を残すだけとなっています。組踊「執心鐘入」では、主人公・中城若松(なかくすくわかま)が恋狂う女性に追われ逃げ込んだ寺となっています。隣接する大名地域のイベントでは、地元住民出演による組踊の上演が行われています。



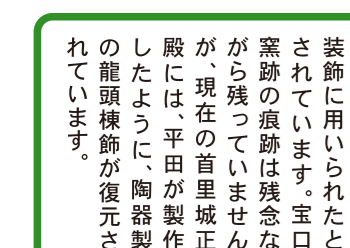
遍照寺跡



遍照寺跡

壺屋焼のルーツ

沖繩の代表的な陶器は壺屋焼です。かつて琉球にはいくつもの窯場がありましたが、一六八二年に首里王府の命により、琉球中の窯場を壺屋に移設統合したのが壺屋焼のはじまり。首里にもかつて中国の陶法を学んだ平田典通によって築かれたと考えられている宝口窯がありましたが、歴史書によると、一六八二年の首里城正殿の修理時に、平田が「五彩龍頭(ごさいりゅうとう)」を作り、はじめて正殿の装飾に用いられたとされています。宝口窯跡の痕跡は残念ながら残っていませんが、現在の首里城正殿には、平田が製作したように、陶器製の龍頭棟飾が復元されています。



宝口窯跡と平田典通



復元された龍頭棟飾